吾妻山の火山活動解説資料

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

＜噴火警戒レベル２（火口周辺規制）が継続＞
昨日（19 日）実施した現地調査では、昨年（2015 年）10 月に新たな噴気が確認された大穴火口北西で、複数の弱い噴気を新たに確認しました。
吾妻山の火山活動は、引き続きやや活発な状態となっています。

【防災上の警戒事項等】
大穴火口付近では引き続き小規模な噴火が発生する可能性がありますので、大穴火口周辺（火口から概ね 500ｍの範囲）では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、大穴火口の風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石、火山ガスに注意してください。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図１～５）

昨日（19日）実施した現地調査では、昨年（2015年）10月に新たな噴気が確認された大穴火口北西で、複数の弱い噴気を新たに確認しました。大穴火口の噴気に変化はみられず、大穴火口周辺の地熱域に拡大等の変化は認められませんでした。

上野寺に設置している遠望カメラによる観測では、大穴火口（一切経山南側山腹）の噴気の高さは５月以降70m以下で経過しており、特段の変化は認められません。噴気活動はやや活発な状況が続いています。

・地震や微動の発生状況（図５）

火山性地震は、少ない状態で経過しています。
火山性微動は観測されていません。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（http://www.jma-net.go.jp/sendai/）や、気象庁ホームページ（http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html）でも閲覧することができます。
この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、東北大学のデータを利用して作成しています。
本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号　平26情使、第578号）。

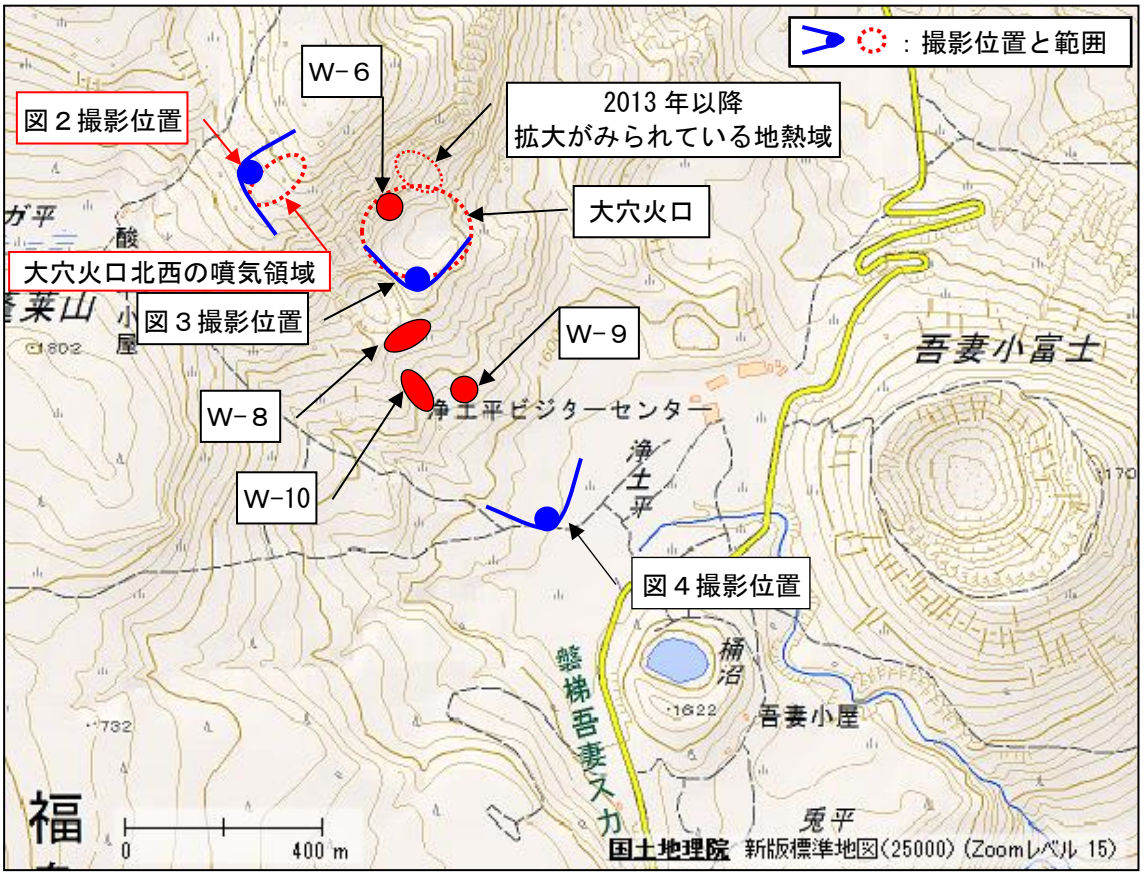
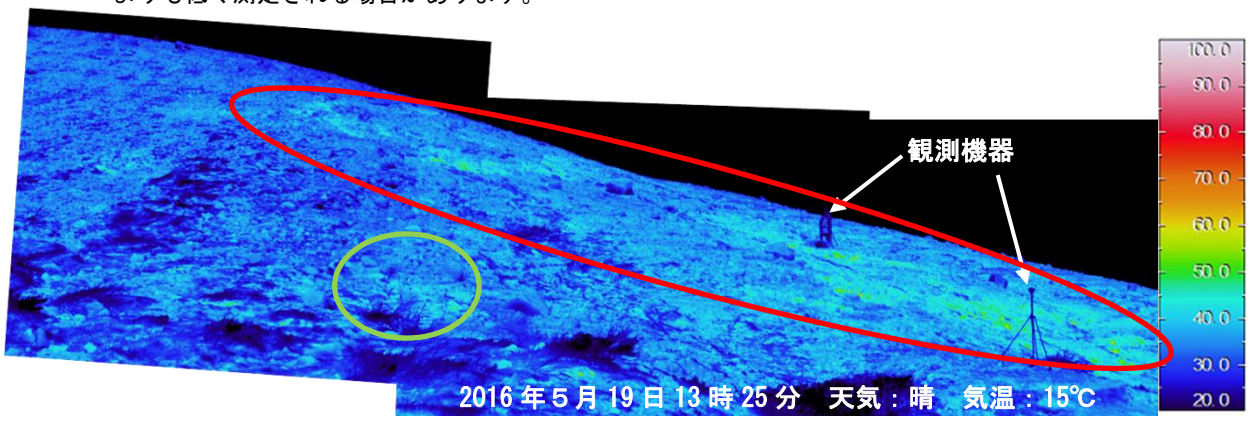


図１　吾妻山　噴気や地熱域の分布図及び写真と地表面温度分布[1)] 撮影位置

1）赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。



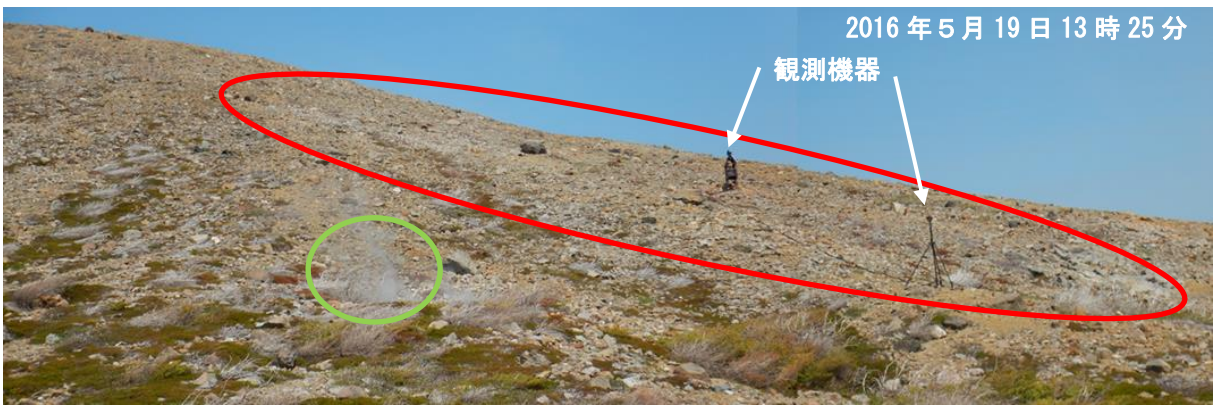


図２　吾妻山　大穴火口北西の噴気の状況と地表面温度分布

・2015 年 10 月に新たに確認された大穴火口北西の噴気（緑実線）は今回も観測されました。
・2015 年 10 月に新たに確認された噴気の周辺（赤実線）において、複数の弱い噴気を新たに確認しました。

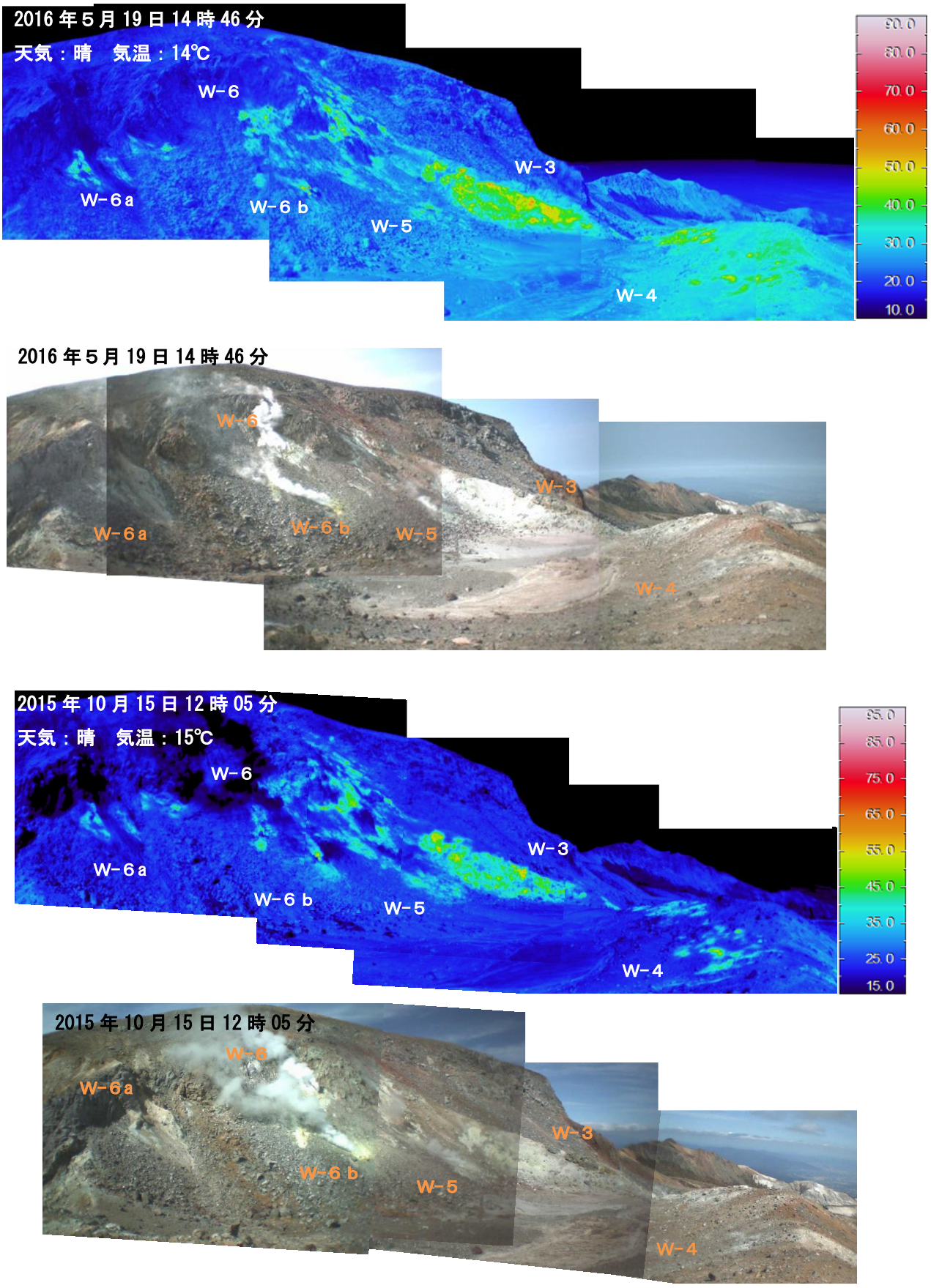
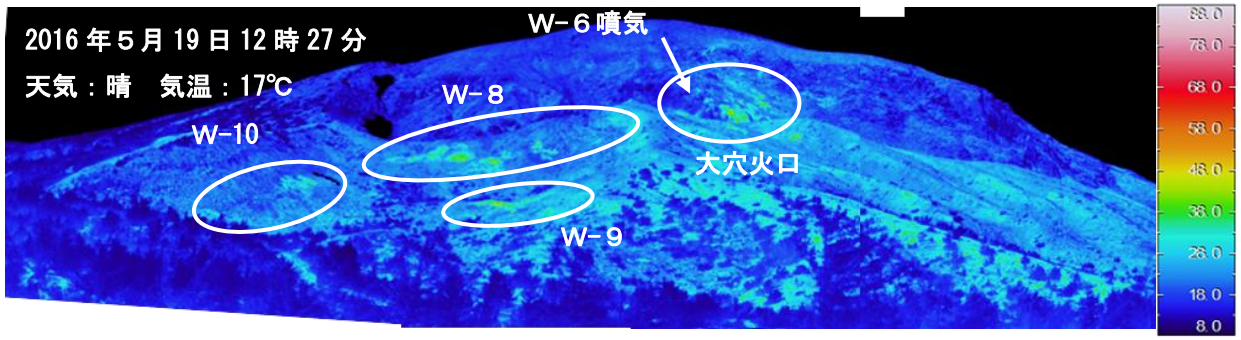


図３　吾妻山　大穴火口の状況と地表面温度分布

・前回（2015 年 10 月 15 日）と比較して、噴気及び地熱域の状況に特段の変化は認められません。



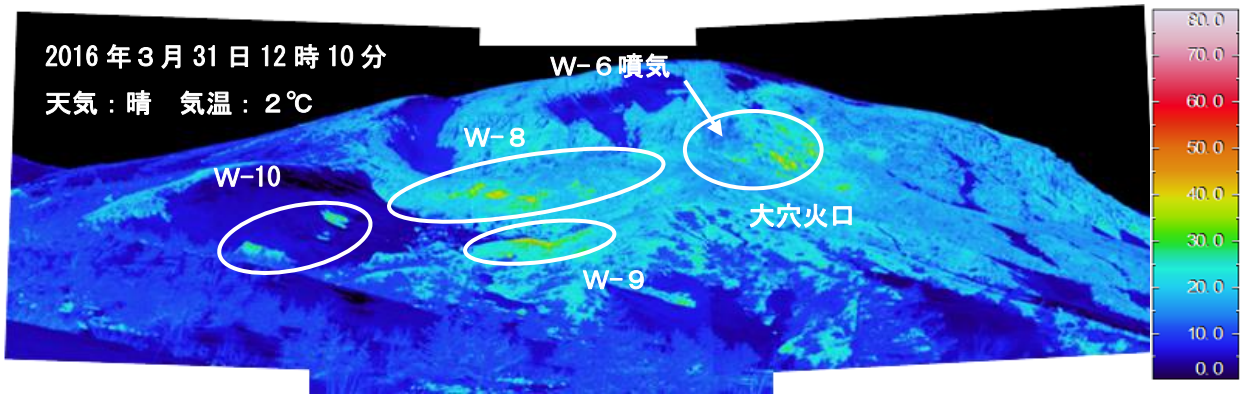


図４　吾妻山　大穴火口及び八幡焼の状況と地表面温度分布

・前回（2016 年３月 31 日）と比較して、噴気及び地熱域の状況に特段の変化は認められません。

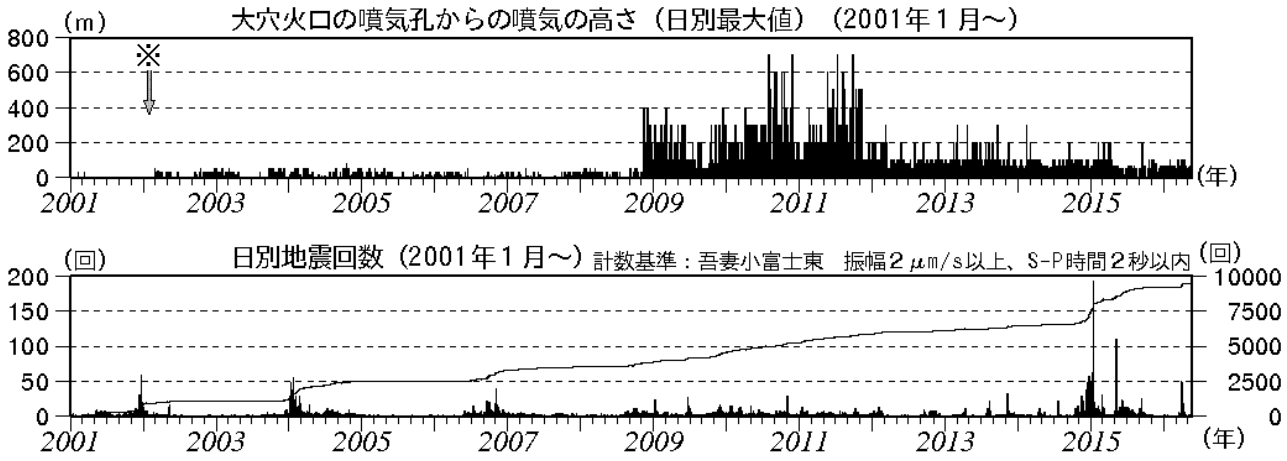


図５　吾妻山　火山活動経過図（2001 年１月～５月 20 日 15 時）

※2002 年２月以前は定時(09 時、15 時)及び随時観測による高さ、2002 年３月以後は 24 時間観測による高さです。

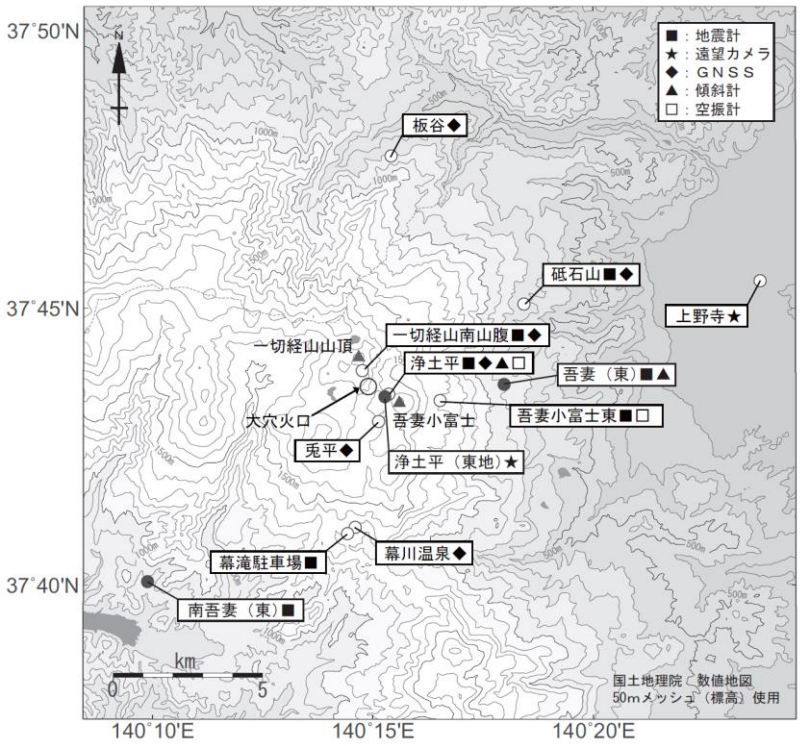


図６　吾妻山　観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（東）：東北大学　（東地）：東北地方整備局